

石川県食品リサイクル及び農産物等循環型社会形成推進  
「能登の小企業における農産物と地域循環型社会の推進活動とは」

2022/1/7



株式会社 ミナトフーズ  
総合給食センター TEL 0767(53)3033

# ミナトフーズのご紹介

社是：豊かな緑・土・水が豊かな作物をつくり、食をつくる．．．そして豊かな人を育みます。

会社名	株式会社ミナトフーズ
住所	石川県七尾市矢田新町67-3-1
電話番号	0767-53-3033
代表取締役	奥村 宣明
会社設立	2011年4月1日
事業内容	<p>■主事業</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・給食提供業務</li><li>・食品加工</li><li>・食品卸</li><li>・厨房設備販売</li><li>・教育支援事業</li><li>・通販事業</li></ul> <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・農業</li></ul>
従業員	7名





# ミナトフーズのご紹介

## ■幼児専用給食提供事業



### 「主な活動」

- 2020/11 そうざい製造業の許可(冷食・長期保存品開発)
- 2020/10 リモートでの特別講義を実施! 昨年に引き続き、北陸学院大学短期大学部食物栄養科での食育活動
- 2020/8 新型コロナ対策取組宣言書発行
- 2019/12 いしかわ里山振興ファンドに採択いただきました。「規格外の能登野菜を活用した冷凍カット商品の開発」
- 2019/12 ぎょしょく授業in北陸学院大学短期大学部
- 2019/12 「第25回石川県青年・女性漁業者交流大会」ぎょしょく教育活動とその効果
- 2019/11 「のとふり」いしかわエコデザイン賞2019資源循環賞を受賞
- 2019/11 羽咋道の駅のと千里浜で「のとふり」販売開始
- 2019/11 能登地域の中学校で2年生家庭科の授業内で、ぎょしょく(魚の特徴、魚の栄養や脂の違い等)授業
- 2019/3 金沢骨の会市民フォーラムでのとふりを紹介
- 2018/12 ミナトフーズにてSDGsを意識した地域循環環境製品の製造を目指し申請させていただいた「のとふり」が第一回エコプロ優秀賞(地方創生賞)を受賞&表紹介で東京にて
- 2018/10 石川県PTA連合会での食育研修会・栄養管理士による地域食材と食に関する講話&能登産の旬の魚の捌き方、旬の魚料理、旬の野菜料理
- 2018/9 石川県の活性化ファンドでご支援いただいた、当社の「のとふり」が第1回エコプロアワード(旧エコプロダクツ賞:一般社団法人産業環境管理協会)の優秀賞(地方創生賞)を受賞
- 2016 企画室設立・管理栄養士
- 2015/9 石川県の活性化ファンド採択「のとふり」
- 2012/4 厨房設備販売開始(次亜塩素酸水)
- 2011/4 給食事業開始
- 2010/1 発足



# ミナトフーズのご紹介

## ■オリジナル商品製造・地物食品卸事業



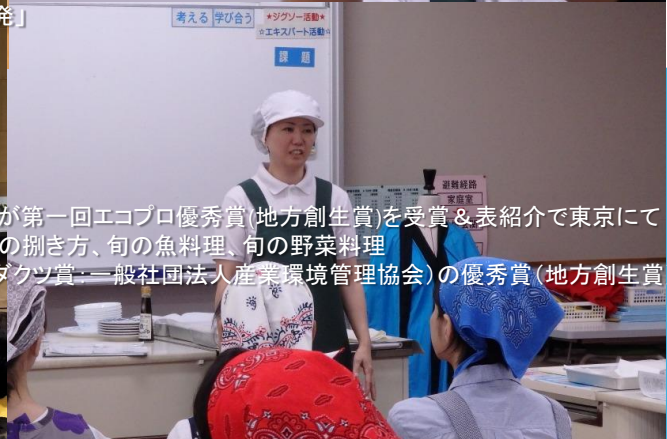
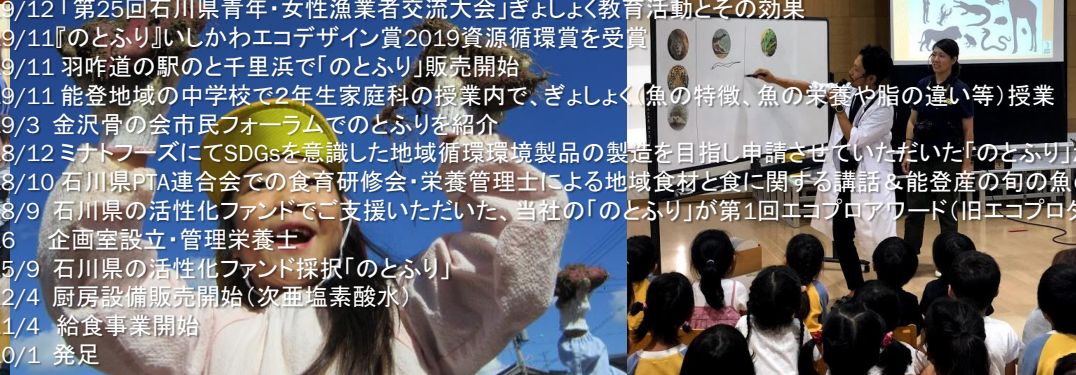
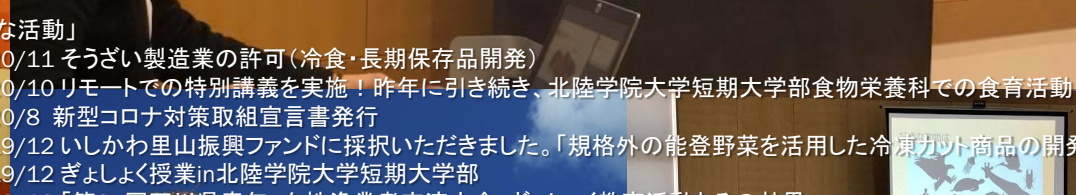
### 「主な活動」

- 2020/11 そうざい製造業の許可(冷食・長期保存品開発)
- 2020/10 リモートでの特別講義を実施！昨年に引き続き、北陸学院大学短期大学部食物栄養科での食育活動
- 2020/8 新型コロナ対策取組宣言書発行
- 2019/12 いしかわ山振興ファンドに採択いただきました。「規格外の能登野菜を活用した冷凍カット商品の開発」
- 2019/12 ぎょしょく授業in北陸学院大学短期大学部
- 2019/12 「第25回石川県青年・女性漁業者交流大会」ぎょしょく教育活動とその効果
- 2019/11 『のとふり』いしかわエコデザイン賞2019資源循環賞を受賞
- 2019/11 羽咋道の駅のと千里浜で「のとふり」販売開始
- 2019/11 能登地域の中学校で2年生家庭科の授業内で、ぎょしょく(魚の特徴、魚の栄養や脂の違い等)授業
- 2019/3 金沢骨の会市民フォーラムでのとふりを紹介
- 2018/12 ミナトフーズにてSDGsを意識した地域循環環境製品の製造を目指し申請させていただいた「のとふり」が第一回エコプロ優秀賞(地方創生賞)を受賞&表紹介で東京にて
- 2018/10 石川県PTA連合会での食育研修会・栄養管理士による地域食材と食に関する講話&能登産の旬の魚の捌き方、旬の魚料理、旬の野菜料理
- 2018/9 石川県の活性化ファンドでご支援いただいた、当社の「のとふり」が第1回エコプロアワード(旧エコプロダクツ賞:一般社団法人産業環境管理協会)の優秀賞(地方創生賞)を受賞
- 2016 企画室設立・管理栄養士
- 2015/9 石川県の活性化ファンド採択「のとふり」
- 2012/4 厨房設備販売開始(次亜塩素酸水)
- 2011/4 給食事業開始
- 2010/1 発足



# ミナトフーズのご紹介

## ■教育支援事業



### 「主な活動」

- 2020/11 そうざい製造業の許可(冷食・長期保存品開発)
- 2020/10 リモートでの特別講義を実施！昨年に引き続き、北陸学院大学短期大学部食物栄養科での食育活動
- 2020/8 新型コロナ対策取組宣言書発行
- 2019/12 いしかわ里山振興ファンドに採択いただきました。「規格外の能登野菜を活用した冷凍カット商品の開発」
- 2019/12 ぎょしょく授業in北陸学院大学短期大学部
- 2019/12 「第25回石川県青年・女性漁業者交流大会」ぎょしょく教育活動とその効果
- 2019/11 『のとふり』いしかわエコデザイン賞2019資源循環賞を受賞
- 2019/11 羽咋道の駅のと千里浜で「のとふり」販売開始
- 2019/11 能登地域の中学校で2年生家庭科の授業内で、ぎょしょく(魚の特徴、魚の栄養や脂の違い等)授業
- 2019/3 金沢骨の会市民フォーラムでのとふりを紹介
- 2018/12 ミナトフーズにてSDGsを意識した地域循環環境製品の製造を目指し申請とさせていただいた「のとふり」が第1回エコプロ優秀賞(地方創生賞)を受賞&表紹介で東京にて
- 2018/10 石川県PTA連合会での食育研修会・栄養管理士による地域食材と食に関する講話&能登産の旬の魚の捌き方、旬の魚料理、旬の野菜料理
- 2018/9 石川県の活性化ファンドでご支援いただいた、当社の「のとふり」が第1回エコプロアワード(旧エコプロダクツ賞-一般社団法人産業環境管理協会)の優秀賞(地方創生賞)を受賞
- 2016 企画室設立・管理栄養士
- 2015/9 石川県の活性化ファンド採択「のとふり」
- 2012/4 厨房設備販売開始(次亜塩素酸水)
- 2011/4 給食事業開始
- 2010/1 発足

# のとふり開発の経緯

- 事業活動での悩み > 解決の為の活動と反省
- オリジナル商品開発の想い > のとふり開発開始(もったいないを商品に)
- 地産地消 > そこにある価値の創出(地域循環型社会とは)
- SDGsとの出会い > 指針と(地域)循環型社会への模索
- 地元農家との連携 > 連携開始と自社の課題と農家の課題



# のとふり開発の経緯

## □事業活動での悩み



## 解決の為の活動と反省



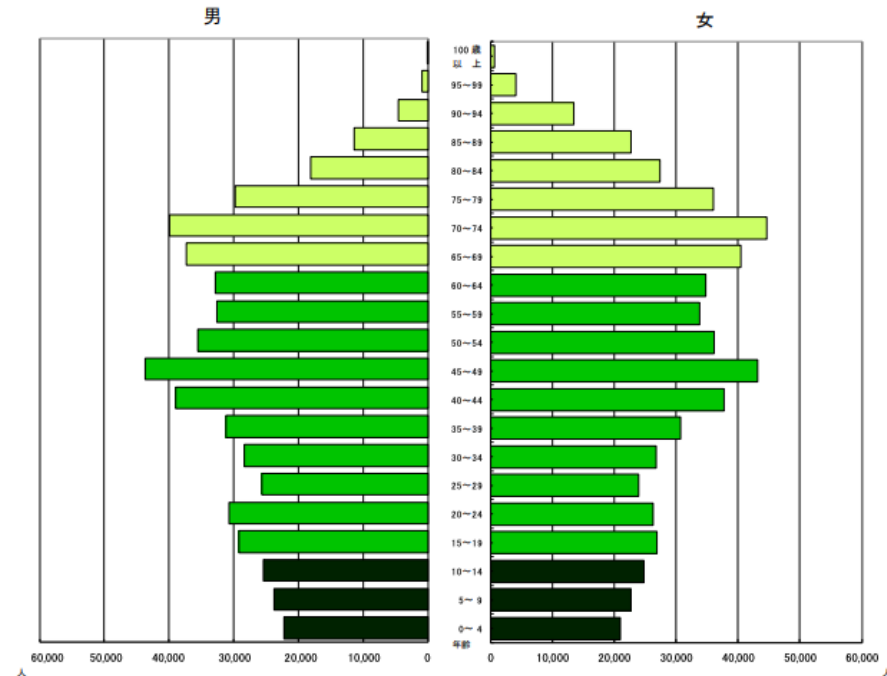
### 2 年齢（5歳階級）別人口

最も多いのは、45～49歳の86,886人

5歳階級別人口では、45～49歳が86,886人と最も多くなっている。  
次いで多いのは、70～74歳の84,665人、その次が65～69歳の77,862人となっている。

【図1、参考表1】

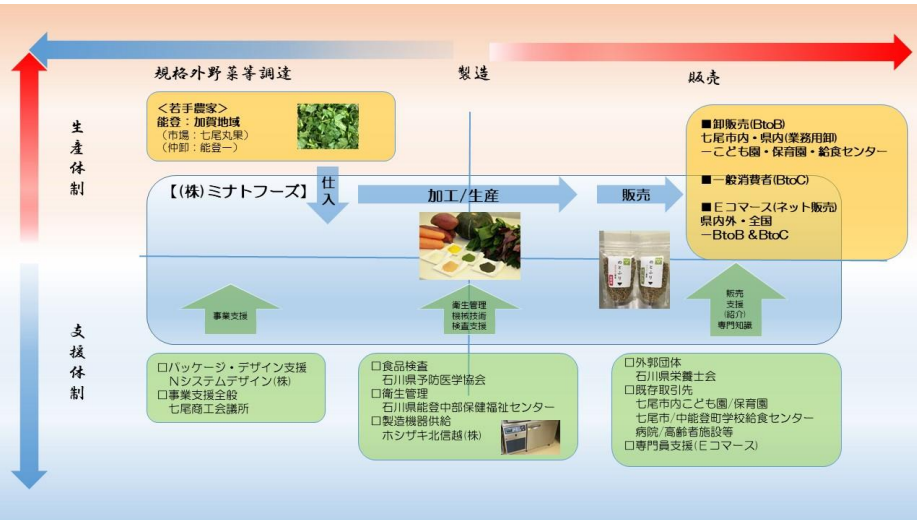
図1 年齢（5歳階級）・男女別人口（令和元年10月1日現在推計）



※65～69歳と70～74歳には、第1次ベビーブーム（昭和22～24年生まれ）の人口が含まれている。  
また、40～44歳と45～49歳には、第2次ベビーブーム（昭和46～49年生まれ）の人口が含まれている。

# のとふり開発の経緯

□オリジナル商品開発の想い > のとふり開発開始(もったいないを商品に)





# のとふりの実績

□オリジナル商品開発の想い >

のとふり開発開始(もったいないを商品に)

販売実績	商品販売	業務販売	トピックス	自社チャネル
2015	0	0	活性化ファンド採択	
2016	0	120	開発	
2017	72	150	一般販売開始	
2018	88	200	エコプロ表彰	お歳暮販売
2019	400	220	いしかわエコデザイン賞2019、金沢骨の会市民フォーラム、みちの駅販売	WEB販売
2020	520	180	表記変更、ふるさと納税開始	
2021	1,180	100	のとふり しそ昆布販売	デリバリサイト開始

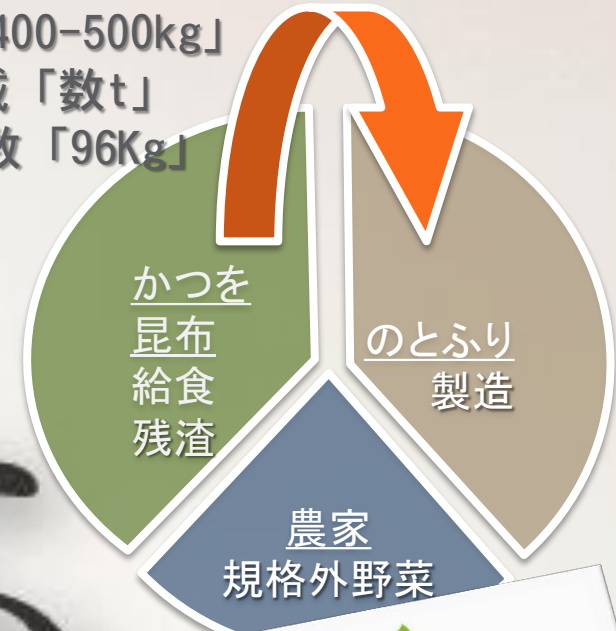
※販売チャネル順(道の駅>自社チャネル>ネット>ふるさと納税)

※商品人気順、金時草入り>ほうれん草>しそ昆布(新規販売中)

## 製品循環利用

- ▽出汁がらの再利用「400-500kg」
- ▽規格外野菜廃棄減「数t」
- ▽製品製造最大可能数「96Kg」

のとふり  
2019年度試算





# のとふり開発と今後の課題

- 地産地消
- SDGsとの出会い
- 地元農家との連携

- > そこにある価値の創出(私たちの地域循環型社会)
- > 指針と(地域)循環型社会への模索
- > 連携開始と自社の課題と農家の課題





# 事業の今後の課題

## □地域循環型社会の実現の為に

環境コストの削減＝地域(近距離型)循環型社会＝変化に強い事業  
地産地消の強化・商品ブランド化の強化

高齢者農業の実現(Smart農業:身体補助具)＞農業生産組合の実現

高齢者の生活応援(サービス・商品の配送ネットワークの構築)

＞冷蔵冷凍宅配ボックス・安否確認・遠隔診断・・・

SDGsとSociety5.0

※自社がどの位置で貢献していくことができるのか？



「能登の小企業における農産物と地域循環型社会の推進活動」



**ご清聴ありがとうございました。**



株式会社 **ミナトフーズ**

総合給食センター TEL 0767(53)3033